

子ども達の心へ続く架け橋を  
～ 家庭教育力の向上と学校、地域との更なる連携へ ～

平成26年3月1日発行  
市P連広報委員会



小松市教育委員会  
委員長 北村 嘉章

## ●市PTA活動の今後の役割

市PTA連合会のお世話をさせて頂いたのは、教育委員に拝命を受けた2年程前でした。初老を迎えると同時に私は、安宅小学校のPTAを皮切りに市P連の活動を合わせて15年間程奉仕させて頂きました。当時、本市P連は今と同様に活発な活動を展開し、研究大会のあり方等を抜本的に改革してきました。しかし、他の連合会は連絡調整機関としてのウェイトが大きく異色の存在であったのではないかと思います。県P連に対しては固定費節減といった緊急課題を執行部及び事務局に進言し、大いに議論したことが昨日のように思い浮かびます。どのような組織も組織体ではなく運動体として、目的をもって地に足の着いた実践活動をしていかねばならないと常々感じています。当時、単Pに対しては自転車保険をはじめ諸活動が、学校に負担をかけない自立したPTAであってほしいと働きかけもしてきました。さて、著しく環境が変化する中、教育現場では様々な課題や事案が発生しています。子ども達のこと・家庭のこと・学校のこと・地域のこと枚挙に遑がないほどの日々であります。特に学校だけでは解決しにくい事案が多くなって来ているのではないのでしょうか。従って学校・家庭・地域との真の連携が一層不可欠になってきています。初期対応はもちろんのこと、正しい情報の入手、そして課題の共有、学校は個ではなく組織力をもってもっと対応すべきでしょう。開かれた学校、また胸襟を開いて保護者と話し合うことが喫緊のすべきことです。PTAは、これまでの事業を単にこなすのではなく不要不急のことは勇気をもって取りやめ、これからはもっと学校との連携を深め、本当の懸け橋となって頂きたいと願っています。ある時は壁・ある時は手足となることも必要でしょう。このような存在・活動が今PTAに求められているのではないのでしょうか。自立した組織・活動の選択・継続と責任、PTAが今の時代にふさわしい組織になってほしいと切望致します。



小松市立学校PTA連合会  
会長 齋藤 浩

## ●大きな夢に向かって

今年度は、「子ども達の心へ続く架け橋を」～家庭教育力の向上と学校、地域との更なる連携へ～をテーマに活動を展開して参りました。多くのPTAの仲間達と出会い、子ども達の思いや悩みを耳を傾け、子ども達を温かく見守っていくことが大切だと感じた一年でありました。

2020年のオリンピック開催地が東京に決定し、子ども達にとっても、オリンピックは見て感動するものから、自分達が参加すると言った、大きな「夢」目標が掲げられた感じがします。6年後の2020年は、今の小学生、中学生が主役の年代でもあります。国境という目に見えない壁を越えて、スポーツを通じて世界の人たちと繋がり、必ずや世界中の人々に感動や勇気、希望を届けてくれる選手が地元から生まれると確信致しております。そのためには我々保護者が、地域の環境をつくり、子ども達の夢への架け橋を創造して参りたいと思います。どうぞ今後益々のご理解とご協力をお願い致します。



# 早寝早起き朝ごはん運動

## 大人が変われば子どもも変わる

日時◆平成25年11月24日(日) 午前10時30分より 場所◆こまつ芸術劇場うらら大ホール

### 「早寝早起き朝ごはん運動」を通して

特別委員会 委員長 岡田 直樹

夏休みに子ども達に「げんきあっぷカード」「チェックシート」の取り組みに多数の方が実践をしていただきました。平成25年で7年目となる「早寝早起き朝ごはん運動」も皆様に少しずつですが意識付けされているとことと思えます。また、同時に募集をいたしました「標語」「ポスター・絵画」「わが家の朝ごはん」の各部門も多数の方が応募していただき、本年度も11月24日に、こまつ芸術劇場うららにて「小松市民大会」を開催しました。募集をしました各部門の表彰とラジオ体操プラス1運動の「地域運動」部門の表彰をさせていただきました。

講演会においては、「サザエさん」のマスオさんの声優でもある、増岡弘氏に「サザエさん一家は幸福みつけの達人ぞろい」と題しましてご講演をいただきました。時代とともに変わる環境の中でも、忘れてはいけない部分や大切にしなければいけない部分があり、声を掛け合い助け合うことの大切さなどをわかりやすく、楽しくお話しをしていただきました。

現在、生活習慣の乱れが精神的、体力的に大きな影響を受けていると言われていますが、我々大人が問題を理解し正面から取り組むことが大切なことであり、地域の皆様と協力をしながら子ども達のための取り組みが必要となるのではないのでしょうか。我々は「早寝早起き朝ごはん運動」を通して生活習慣の確立を目指していきたいと思えます。

今回、この運動に関係をしてくださいました多くの皆様に心から感謝申し上げますとともに、変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。



# 市民大会 講演会



◇演題：サザエさん一家は幸福みつけの達人ぞろい

◇講師：増岡 弘氏 (俳優・声優)

「サザエさん」のマスオ役

当日は「サザエさん」のマスオ役、「それいけ！アンパンマン」のジャムおじさん役としてもお馴染みの声優の増岡弘氏による講演会を開催しました。サザエさん一家の幸福にまつわる知られざる楽しいお話しをしていただきました。



## 〈早寝早起き朝ごはん運動〉入賞者のみなさん

### ◆『我が家の標語』部門

中海中学校 3年 佐々木大智さん・国府中学校 1年 八木萌々香さん  
 苗代小学校 5年 多島 野恵さん・国府小学校 5年 松本 響揮さん  
 安宅小学校 1年 山口 大吾さん

### ◆『我が家の朝ごはん』部門

第一小学校 6年 田野圭一郎さん・矢田野小学校 5年 松本 遼さん  
 苗代小学校 4年 川野 真白さん・第一小学校 4年 蕪城 仁さん

### ◆『早寝早起き朝ごはん運動』ポスター部門

安宅中学校 2年 西澤 舞さん・第一小学校 5年 三井結生奈さん  
 波佐谷小学校 2年 城下稀吉郎さん・能美小学校 1年 中山 大駕さん

### ◆『早寝早起き朝ごはん運動』 地域運動部門

島町児童部 代表者 北口 隆史 様  
 野田町子供会 代表者 村永 隆一 様



# 第3回 母親委員会

## グループ別研究発表会

日時◆平成25年10月17日(木) 午後7時より 場所◆第一地区コミュニティセンター

第2回母親委員会の講演会で、小松市教育委員会委員長 坂本 和哉 氏の「今、子どもに求められる力」～そのために家庭では～を拝聴し、その中から各グループでテーマを見つけ出し、討論するかたちで研修をしました。各グループで集まり大変意義のある時間を過ごすことができました。各小中学校に活動内容の冊子を配布してあります。ぜひご覧下さい。

### Aグループ



#### 「子どもの自立 / 親の自立」

廣瀬 順子 (今江小) 湯田他恵子 (犬丸小)  
竹島 清美 (芦城小) 北出真由美 (符津小)  
国本 鮎子 (国府小) 宮浦三奈子 (粟津小)  
大音 順子 (波佐谷小) 下坂実菜代 (木場小)

### Bグループ



#### 「しつけで大事なこと」

飴山 弓乃 (苗代小) 藤田 美和 (安宅小)  
馬場 智美 (申小) 久田 実樹 (能美小)  
吉田 桂子 (能美小) 川場 真香 (荒屋小)  
油片 明子 (蓮代寺小) 高橋 明美 (西尾小)

### Cグループ



#### 「子どものコミュニケーション能力を育む」

～次世代育成 親や大人になるための準備教育～

木藤 真紀 (中海小) 浅木 栄子 (第一小)  
魚住 真紀 (稚松小) 高藤ともえ (矢田野小)  
番田 由佳 (月津小) 土田つかさ (向本折小)  
染川あや子 (日末小) 田中 珠美 (金野小)  
川口 洋美 (那谷小)

### Dグループ



#### 「未来を自分らしく生きてゆくために」

～親離れ・子離れの準備を始めよう～

森田 寧子 (丸内中) 坂下 雅子 (御幸中)  
橋本 美幸 (南部中) 飴谷 礼子 (松陽中)  
宮崎 晃子 (芦城中) 西田 和代 (板津中)  
北 晶 (安宅中) 源 和美 (中海中)  
川崎 和美 (国府中) 谷口 恵美 (松東中)

## 読んでみまっし!

私たち母親委員会広報担当者(番田由佳・下坂実菜代・浅木栄子・吉田桂子)からのオススメ本です。



#### 「育てにくい子」 と感じたときに読む本

佐々木正美 著  
主婦の友社 発行

悩み多き年齢を上手に乗り越えるためのアドバイスが満載です。



#### 子ども力 × 母親力

明橋大二・早川たかし 著  
飛鳥新社 発行

子ども達の自己評価を育むにはどうすればよいのか。  
家庭でできることは何なのか。  
子育てのホットトークをぜひ読んでみて下さい。

一年間ありがとうございました。母親委員会広報担当者一同

# 〇〇〇〇 母親研修会 〇〇〇〇

◆平成25年10月22日(火)

総勢28名で見学してきました。様々な体験を通して、交流を深めることができた研修会でした。



地震体験



白山野々市広域消防本部防災学習センター→浅野太鼓(見学)→  
グランドホテル松任(昼食)→加藤和紙工房(見学・体験)



紙漉き体験



浅野太鼓

## 参加者の感想

- ◆地震体験で過去に発生した揺れを体験しました。想像以上に怖かったです。
- ◆楽しく紙漉き体験ができて素敵なハガキを作り嬉しかったです。

## 子どもたちへのプレゼント



母親委員会  
委員長 田中 堂子

娘が初めての一人暮らしをすることになった時の事です。希望を胸に、娘の新生活に「幸あれ!」と、祈りながらも、送り出す親としては様々な不安がありました。それを感じ取ってか、娘は私に、新しい環境に羽ばたいていく生徒たちにむけて贈られた、担任の先生の言葉を聞かせてくれました。

「人って、結構いいもんや。何かあったら周りの人に助けてもらいなさい。」

その言葉通り、娘はたくさんの人に出会い、支えられて学生生活を過ごす事ができました。

今、小中学校に通う子どもたちも、これから次々と新しい環境や社会のドアを開いていきます。そこにあたたかい人間関係がつながっていますように。「人って、結構いいもんだよ」と、自信を持って言える社会がありますように。そして、そんな社会を子どもたちにプレゼントできるよう、まずは私たち大人が自分の出来る事や役割を考え、協力し合っていけたらと思います。

最後になりましたが、一年間共に活動し、温かい言葉と御協力をいただいた母親委員の皆様、心より感謝申し上げます。



# 第16回 小松市中学校新世代会議

## 事業概要

- 日時・場所 平成25年11月17日(日) 13:30~16:00 第一地区コミュニティーセンター2F 多目的ホール
- 対象者 小松市立中学校生徒40名(各中学校2年生 男女各2名)
- 事業内容 4グループに分かれ、参加生徒から他校の生徒と話したいテーマについて討議を行う(司会・進行 新世代委員)

### テーマ

- ◆Aグループ 『勉強について』
- ◆Cグループ 『部活動について』
- ◆Bグループ 『インターネットとの付き合い方について』
- ◆Dグループ 『いじめについて』



## 次代を担うリーダー

新世代委員会 委員長 木田 勝彦

近年、子ども達や学校を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした中で日々子ども達が感じている率直な思いを意見交換し、また、他校の生徒との交流を図る機会となった新世代会議はとても有意義なものとなりました。

本年度のテーマには、社会問題としても大きく取り上げられている「いじめ」や「ネット」に関するテーマもあり、非常に難しい内容となったものの、参加した生徒たちは真剣に向き合いお互いの意見を交わしていました。

「ネット」についての意見交換では、子ども達が過ごすネット社会で今、起きているトラブル、起こしているトラブルは現実社会とネット社会の区別をしないまま行動していることから起こっているものであると感じました。

インターネット上ではたくさんの情報があり、それを上手く使えるようになれば生活をする上でとても便利です。氾濫する情報の中には必ずしも正しい情報、適切な情報とはいえないものもあります。刻々と変化するネットの世界に子ども達が踊らされてしまうことしばしばあり、私たち保護者も常にその変化に目を向けている必要があると改めて感じました。

最後に、この会議を通して印象に残ったことは、参加した生徒の殆どが初対面にも関わらず、各学校のリーダーの存在どおり堂々と自分の意見を述べていたところでした。こうした姿には感心するとともに非常に頼もしく思いました。

参加した生徒には、この新世代会議で得た経験を活かし、自校のリーダーとして、また、次代の小松を担っていくリーダーとして今後さらに活躍することを心からお祈りいたします。



# 単Pだより “不撓不屈”の精神で～さらなる飛躍の為に～

芦城中学校

芦城中学校玉成会会長 出口 一弥

今年度の玉成会のテーマを表記の通りとしたのは、前年度の活動内容の継承と改善を実施的に行う為、その運営方法を改善することにしました。例年と変わったことをすると何らかの弊害が生じるかも知れません。さらなる飛躍の為、不撓不屈の精神で臨んでいます。各委員会の活動で、前年の内容に手を加えたものとして、①給食試食会の当日は授業の参観を可能とした。②教養講座は目的が合致する育成、教養の二つの委員会の合同運営とした。③一学期末に懇談会が続く為、時期と内容を変更した。具体的には個人懇談は従来通り行い、地域別のブロック懇談会は二学期の直前に学年懇談会として行い、引き続き学級懇談会を行いました。以上三点が主なところですが、先生方の負担の軽減と、保護者の参加率増加を図りました。さて、PTA活動とは直接関係ありませんが、今年度生徒の着用する体操服を新しい素材、デザインに変更することが検討されました。以前から保護者から希望があったようです。また、昨年度より石川県教育委員会から「いしかわ学びの指針12か条推進校指定事業」の推進校として先生方は研究実践に取り組まれています。来年度は玉成会として、何かしら協力していくことになりそうです。



# 単Pだより

栗津小学校

## 創立140周年を迎えて

栗津小学校育友会長 丸山 直輝

栗津小学校は今年で創立140周年と節目の年を迎えました。私が在籍していた時は、節目の年ではなかったので、このような記念すべき年に小学校に携わる事が出来て、大変嬉しく思います。創立140周年を迎えるにあたり、せっかくなので「何か思い出に残る事を」を合言葉に学校の先生方や育友会役員で、行事内容について話し合いをしてきました。

栗津小学校は歴史ある温泉街にありますので、地域の皆様は温かい方ばかりです。創立140周年を学校や保護者の皆様だけではなく、普段、何かと学校に支援していただいている地域の皆様と共に、喜びを分かち合いたいと思い、メインの行事を140周年記念事業とし、地域に発信することにしました。その中で、一番大きな行事である「運動会で思い出に残る事をしよう!」と、記念垂れ幕を作成し、記念撮影を行いました。各学年の親子全員での記念撮影は、小学校の入学式しかなかったので、私的には、大変嬉しく思いました。その他には、学校を開放しての、日本奇術協会のマジシャンによる、ベストマジックフェスティバルを開催して、驚きあり、感動ありのステージで、児童や保護者の皆様、地域の皆様と共に楽しい時間を過ごすことができました。

140周年に携わった児童が親となり、保護者として栗津小学校に戻ってきた時に、「当時はあんなことをしていたなあ。」と、写真等で思い出し、来るべき節目の年に力になれることを願っています。



## ◆東海北陸ブロックPTA 研究大会報告◆

東陸大会準備委員会 委員長 北出 雅宏

平成25年8月23日・24日の両日に、第61回日本PTA全国研究大会並びに第69回東海北陸ブロックPTA研究大会が三重県内10会場にて開催されました。

今回の研究大会は全国研究大会との併催という事で全国から約8000人が参加。分科会では「学校教育」「地域連携」「人権教育」「国際理解」など11会場にて基調講演やパネル討議を行い議論を深めました。

また全体会では、「子どもたちの未来へ」と題しヴァイオリニスト・作曲家の川合郁子さんがチャリティーコンサートの実施など社会奉仕活動を行い、親との絆や感謝と喜びなどについて自らの経験談を交え記念講演を行いました。参加者は家庭・学校・地域の連携、和の大切さについて改めて感じる事が出来ました。

・・・ お知らせ ・・・

第71回東海北陸ブロックPTA研究大会 石川県・小松大会が平成27年10月9日～10日に小松市にて開催予定です。「子ども達の未来を地域とともに」～「智・仁・勇」の心から始まる未来への物語～を研究主題とし、現在準備を進めています。小松らしさを存分にアピール出来るよう、皆様方のご協力を頂ければと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

# SWOT 分析から見たもの

小松市立学校 P T A 連合会 副会長 大久保雅春

私達新世代委員は一昨年前より「学校支援」をテーマに研究に取り組んで参りました。

その中で昨年は市内全小中学校教職員からいただいた「学校支援」についての意見アンケートの結果を基に学校側が私達保護者に期待する「学校支援」のありかたについての発表をさせていただきました。その中で学校の負担が増えていることや保護者に対する率直な思いなど現状を踏まえた意見を聴くことができました。

今年は私達保護者がそれを受けて P T A 活動に対してどのように取り組んでいくべきか、それぞれの学校にどんな特徴や問題があるかを SWOT 分析という方法で分析しようということで市内全小中学校の会長さんに分析を依頼いたしました。

SWOT とは目的を達成するために意思決定を必要としている組織や個人のプロジェクトなどにおいて外部環境や内部環境を強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) の 4 つのカテゴリーから評価、分析する手法です。

そこから改善点を探りだす事で今後の P (役員・保護者) が何をすべきであり今後どのように学校支援に関わり取り組んでいくかを考えるという事を研究のテーマにしました。集まった評価、分析にはそれぞれが持っている強みや機会、それぞれが抱える弱みや脅威が見えましたがそれらを集約すると共通して見えるのはどの学校も強みや機会を活用するには人の繋がりが大切であること、弱みと脅威を克服するには仕事と生活の調和、そして地域コミュニティの活性化が必要であると感じている事がわかってきました。

P T A 活動を取り巻く問題は今日、保護者の価値観、仕事の形態、生活リズム等の多様化に伴い複雑なものとなり簡単には答えが見つかりません。確かにスリム化や時代に合ったスタイルや方法、見直しも必要ですが、地域内の多様な主体が支えあい同じ地域の構成員としての共生の意識を持って地域コミュニティを更に発展させることが必要だと私達それぞれ単 P の会長は身をもって感じているのです。

この分析結果で『学校支援とは』学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで『子どもを育てる体制を整える』事であること、そして特に地域の様々な人材 (人財) との連携協力して今後も取り組んでいきたいという事で発表を締めくくらせて頂きました。

発表後にいただいたご意見で教育には 5 つの CH (コーチング・チャンス・チャレンジ・チェンジ・ティーチ) があってそれぞれに具体性、協力性、計画性のバランスが必要であると同じく P T A 活動にも同じことが言えるのではないかという言葉が印象的でした。

バランスの良い活動…。現実的にはとても難しいと思います。しかし私達はそのバランスを良くするために地域の中で今後も一歩一歩体制を整えるために働きかけていこうと思っています。

## ひだまり



### 明るい家庭

小松市立学校 P T A 連合会 副会長 東 友起子

様々な案内が届きますが、私はなるべく参加するようにしています。参加すると出会いや気づきがあり経験が豊富になります。そのことを話すと、「いい所に行って来たねえ。」と家族が喜んでくれるので、理解と協力がある恵まれた環境にいることを心から感謝しています。

たくさんの講演会で感謝することの大切さ、「ありがとう」を口にすることの重要性をよく耳にします。言われると嬉しいのと、言葉にしていると気持ちがいいので、たくさん「ありがとう」と伝えるように心がけています。感謝の意を表す場面以外にも、家事や運転をしながら「ありがとう、ありがとう」と繰り返しています。すると、不思議なことに感謝の思いがあふれ、幸福感が湧き上がってきます。心に余裕がないときも落ち着くことができ、気持ちが明るくなります。問題が起きた時もレベルアップするための試練を「ありがとう」と思って進めば乗り越えることができるのです。

感謝に目を向け、明るい家庭であることが子育てにとっても大切であると感じるようになりました。これからも子どもが成長する姿を楽しみにして見守っていきたく思います。

## 編集後記

この一年間、市 P T A 連合会活動に参加してみて、子ども達と向き合う姿勢を大いに学びました。これからは、P T A 活動を通じて、この経験を少しでも子ども達のために役立ていきたいと思っています。

また、P T A だよりに原稿を頂いた皆様、ありがとうございました。

広報委員長  
紺谷 一直

